

幕末外交の裏舞台で奔走

箕作阮甫

み つくり げん ぼ

日時 平成28年4月18日(月)午後2時～4時30分(予定)

場所 山陽新聞社さん太ホール (Tel 086-803-8222)



津山洋学資料館所蔵



ペリー提督・横浜上陸の図 (横浜開港資料館所蔵)

基調講演①

「幕末の外交と箕作阮甫の役割」

明海大学教授 岩下 哲典

基調講演②

「箕作阮甫、その学者としての系譜」

津山洋学資料館元館長 下山 純正

対談

「箕作阮甫の人物像とは？」

明海大学教授 岩下 哲典

津山洋学資料館元館長 下山 純正

山陽放送アナウンサー 奥富 亮子

主催 ● 公益財団法人 山陽放送学術文化財団

共催 ● 岡山日蘭協会

後援 ● 岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、津山市、津山市教育委員会、香川県、香川県教育委員会、公益財団法人岡山県郷土文化財団、山陽新聞社

入場無料



ペリー

津山藩医の三男として生まれた箕作阮甫(1798~1863)。京都で漢方を学んだ後、江戸に出て宇田川玄真に蘭学を学ぶ。幕府の蕃書和解御用として蘭書・外交文書の翻訳にあたり、1853年ペリー来航時には米国大統領の親書を翻訳。プチャーチンとの対露交渉では使節団に随行するなど舞台裏で奔走する。その後、幕府の蕃書調所(東京大学の前身)創設に参画して首席教授を務め、「海外情報の収集と研究」に力を注いだ。



プチャーチン

阮甫の訳述書は、日本最初の医学雑誌『泰西名醫彙講』をはじめ、19世紀の新世界誌をめざした『八絃通誌』、官命による『海上砲術全書』など、99部160冊余りにも及び、その分野は医学・語学・西洋史学・軍事科学と広範囲にわたっている。

シンポジウムでは、日本近世・近代史研究が専門の明海大学の岩下哲典教授、津山洋学資料館の下山純正元館長を招き、激動する幕末期の外交や科学技術をリードした蘭学界の大御所・箕作阮甫の業績と、吉田松陰や坂本竜馬など維新の志士たちにも影響を与えた箕作家の系譜を読み解く。



異国船渡来の図(津山洋学資料館所蔵)



八絃通誌(津山洋学資料館所蔵)



泰西名醫彙講(津山洋学資料館寄託)

出演者プロフィール

ご希望の方には「優待席」をご用意します。
この用紙のままFaxでお申し込みください。

3月15日(火)締切



明海大学教授

岩下 哲典 (いわした てつり)

長野県生まれ。専門は日本近世・近代史。特に、江戸幕府の外交政策、文化政策、情報政策を研究テーマとしている。国際日本文化研究センター共同研究員、浦安市社会福祉協議会理事など歴任。洋学史学会、明治維新史学会、洋学史研究会、地方史研究協議会などに所属。著書に『権力者と江戸のくすり』『江戸のナポレオン伝説』『江戸の海外情報ネットワーク』『レンズが撮らえた幕末の日本』『日本のインテリジェンス』など多数。



津山洋学資料館元館長

下山 純正 (しもやま よしまさ)

岡山県生まれ。専門は洋学史、医学史。特に、在村蘭学者の動静を追うことを長年のテーマにしている。洋学史学会、日本医史学会関西支部などに所属。論文に『蘭学重宝記の不可思議』『宇田川玄真病状記とその一年』などがある。共著に『在村蘭学の展開』『岡山県歴史人物事典』など。



山陽放送アナウンサー

奥富 亮子 (おくとみりょうこ)

岡山県生まれ。入社初仕事が津山洋学資料館の取材。箕作阮甫、宇田川榕菴らの業績を紹介するテレビ番組でアナウンサー人生をスタートした。テレビ番組「VOICE21」のリポーターとして岡山、香川を隈なく回り、トメちゃんのお嬢様で親しまれる山陽放送の顔に。現在は、ラジオ番組「昼からど〜だい!」「不思議なアートパラダイス」などを担当している。

お名前
(企業名)

〒

ご住所

申込人数

※ 2名までとさせていただきます。

ご連絡先
(電話など)

fax 086-225-5046

優待席お申込は、ハガキ、e-mailでも受け付けます。

◆ e-mail nichiran@rsk.co.jp

◆ ハガキ宛先 〒700-8580 山陽放送内(公財)山陽放送学術文化財団

◆ 複数応募不可

希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

「優待席のご案内」はハガキでお知らせします。

お問い合わせは 公益財団法人 山陽放送学術文化財団 [tel 086-225-5531]

岡山蘭学の群像
第5回予定

きしだぎんこう
「岸田吟香」

日本初がいっぱい!

液体目薬販売、和英辞書編纂、新聞創刊、従軍記者、盲啞学校創設、石油掘削…。画家・岸田劉生は吟香の四男。

平成28年8月
山陽新聞社
さん太ホール